

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第六回豊島区教育ビジョン検討委員会幼児教育部会 (幼児教育のあり方検討委員会《第 2 次》)
事務局(担当課)		庶務課
開 催 日 時		令和 6 年 10 月 22 日(金) 16 時 30 分～17 時10分
開催場		豊島区役所本庁舎 8 階 教育委員会室
議 題		「豊島区教育ビジョン検討委員会幼児教育部会 最終報告書案」について
公開の 可否	会 議	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開 傍聴人数 0 人 非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開 非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員 (敬称略)	田代 幸代 角本 史夫 山口 範子
	その他	教育部長、障害福祉サービス担当課長、子育て支援課長、子ども家庭支援センター所長、子ども若者課長、保育課長、保育政策担当課長、庶務課長、学務課長、指導課長、教育センター所長、区立幼稚園長
	事務局	教育施策推進担当課長
欠席	(敬称略)	箕輪 潤子、保育支援担当課長、区立小学校長

審 議 経 過

発 言 者	発 言 要 旨
事務局	挨拶 (議事の説明)
田代部会長	前回の委員の皆様からのご意見を踏まえ、また教育ビジョン検討委員会委員からの主なご意見なども踏まえ適切に修正していただいたと思います。 それでは 17 ページ以降の区立幼稚園について事務局よりご説明お願いいたします。
事務局	(議事の説明)
田代部会長	今年度、次年度に向けての園児募集の状況が例年にも増して厳しい状況になっているということで理解いたしました。 その点を踏まえまして、今後の公立幼稚園がどのようにあったら良いかということで、いくつかのご意見のご紹介もありましたが、本日ご参加の先生方はいかがでしょう か。
事務局 (F 委員ご意見)	本日 F 委員がご欠席ですが、事前にご意見をいただいておりますのでご紹介させていただきます。 リレーや鬼遊びなどチームにわかれて対戦する時に、特にこの 4 歳以降ですと、チームで対戦をしたり、他者との関わりが増えたり、あとは相談したりする経験というものをするためには、やはり最低でも 6 人から 8 人とかそれぐらいの人数が良いという意見を聞いているところでございます。
E 委員	私立も今すぐ子どもが減ってきています。現状で各学年 1 桁という私立幼稚園が複数あります。 それから今年の募集もあまり芳しくないというふうに聞いていますので、来年各学年が一桁になるのではないかと、そして今後そういった園が増えていくのではないかと感じています。 私立の場合は、その補填はないので使命感だけでやっているという状況です。 ただ、運営ということを除き保育ということで考えますと F 先生のお話にもありましたが、1 学年の人数が少なくても、複数の学年、4 歳児と 5 歳児と一緒に保育をしていくことで一緒にのクラス編成で例えば 10 名満たなくても 8 人とか、あるいは 10 人ぐらいとかってというクラス編成になれば集団としての関わりは確保できていくと思います。 異年齢の子どもが関わる中では、例えば下の年齢の子は上の年齢の子たちからいろいろな教えをもらったり刺激を受けたり、上の年齢の子は下の年齢の子にいろんなこ

	とを教えていったりすることができると思います。 うちの園では、保育者はいつも大人であっていつも保育者であるというのは、違うのではないかといつも言っています。 例えば、大人や保育者として子どもと関わる時もあれば、子どもと同じ目線で同じ年齢の子どもという立場で関わったり、少し上の子どもという立場で関わったり、その上の年齢の子たちの壁になってあげたり、刺激になってあげたりすることは、保育者が良いとすればできる部分があると思います。できれば10人ぐらいいると理想だとは思いますが、学年で4、5人いれば4歳児5歳児で8人ぐらいであっても、保育者の関わり方次第によっては、上の年齢の子どもたちと切磋琢磨するような関わり方もできるのではないかと考えています。
田代部会長	私立園の現状もご報告いただきまして大変参考になりました。 また理想と現実のお話もいただいて、理想はありますけれども現実的なラインとしては、先生のご意見としては4、5人ではないか、そしてそれはまた保育の運営の仕方、また保育者の関わり方、そういったことによって乗り越えられるのではないか、そのようにお話をお聞きいたしました。 続けてN委員はいかがでしょう？
N委員	保育園も同じような現象があることは本当に申し上げたいところです。 現在保育園が70園、私立園が75園、公設民営が2園ということで77園ある中で、4.5歳の保護者の方が3.4.5歳で合同保育をしている小さな保育園もあります。工夫しながら保育を行って、1学年3人でも合わせると10人になるということで集団保育として行っているところもありますが、保護者によってはそれが家庭的でいいというご意見もあれば、小学校に行ったときに急に35人の学級ですごく不安になってしまうので4歳で転園する方もいるなど、そこはそれぞれのご家庭の判断があるのだと思います。 ただ最低基準の最低人数を決めた方が幼稚園の運営にとってよければ5人程度というのは妥当かなというイメージはあります。
田代部会長	就学前教育保育施設同士でも暮らし方や生活の進め方など、交流活動を工夫できるのではないかと。 そして最低人数を決めるのであれば、5人程度が妥当なのではないか、そのようなご意見をいただきました。続いて高橋委員はいかがでしょう？
区立幼稚園長	1人だと自分だけで2人だと私とあなただけの二者関係になりますが、相談や調整となると3者いると意見が食い違う調整もあるので今までの経験から、私は3人でもいいのではないかと考えています。

	それでも少ないとなると、5 人程度が最低と思っています。 望ましい園児数についてですが、誰にとっていい環境なのか考えたときに、保護者の視点も入れると、これが人数で切ってしまって、望ましい環境ができるのかどうかという事です。 私立も保育園も工夫しているということですが、私達の園でも人数が少なくても、保育園と交流していますし、それこそ家庭にいらっしゃる方もぜひ幼稚園に来てほしいと思っています。
田代部会長	最低人数が 3 人でもいいのではというお話がありました。今、区の園児募集の減少が続いていますが、区立幼稚園として、原因やもう少しこういうことを取り組んでいかなければいけないなど何かございますか。
区立幼稚園長	全体的に就労している両親が多いということで以前に提案もありましたが、預かり保育等の充実というのも大切だと思います。 誰でも通園制度とか 3 歳からでも少しプレで行けるとか、そんな環境もあつたら、いいのではないかと思います。 4 歳ってところがやはり 3 歳が待てなくなってそれこそ集団に入れたくても入れない環境でもあります。 実際に行こうと思っても保護者が選びやすい窓口を広げていただければ、年齢的にもありがたいというところがあります。
田代部会長	区立幼稚園の人数が集まっていないということをお聞きして本当に厳しいなと思いつながら、また私立園の状況それから私立公立含めた保育園の状況いろいろな状況をお伺いしていると、やはり区全体の子どもたちの人数も減ってきているということがわかります。どこの就学前教育保育施設も全て厳しい状況であるのかなと思いつながら聞いておりました。 上限の人数は 35 人と決まっていますが、下限が決まっていないことに関してはいろいろなことがあつて決められていないということなのだと思います。 例えば、人数が少ない地域もございますし、日本全国いろいろな地域がある中で、やはり下限を設定するというのは難しく、地域の事情を踏まえたケースバイケースということで定められていないのだと思います。 先ほど事務局からも、都内の他区の現状などお話がありましたけれども、私も先日江東区の園長先生にお話をお伺いして、なぜ江東区が 5 人に満たない場合という下限を設けているのか話を伺ってまいりました。 やはり2つのグループで活動するということの最低ラインをいろいろな書物や配布物から下限を設けていると伺いました。都内の中での下限の人数はいろいろですが、

豊島区がどのあたりで参照できるのかということを考えたときに、やはり一定のグループ活動ができる相談活動ができる集団活動を工夫して展開していけることができるというのを考えたときに、やはり5名程度、もしくは3人で2つのグループ活動を行うことができる6人以上というのが目安になってくるのかなと感じました。

委員の先生方からもそのような人数のお話が出ておりましたので、この際にここで一気に決めてしまうというよりは少し状況を見ながら、また前後の年の募集状況や同じく区内全体の状況を鑑みながら進めていただければ幸いです。

また公立を全廃した大田区は区でいろいろな教育政策を進めるときに、実際にパイオニアとして先導してしてくれる公立園がなくなってしまい、幼少の関連ですとか教育委員会がいろいろなことを進めていくときに、かなり実現していく際に厳しい状況があるということを伺っております。

また公立園の先生がいなくなってしまったことで、いろいろな区の幼児教育に関する今回、豊島区で言えばセンターを設置しようというお話も出ていますけれども、そういったところに携わってくださる専門家が少なく、東京都の園長会などに出向いていてそういう役に応募してほしいと依頼もしていると聞いております。

また中野区では、一度公立園を停止しようというお話もありましたけれども、区としてのビジョンを策定する際に、公立園の先生方のお力なしにはそれをまとめることは難しかったというようなこともございました。

そのようなことから少しずつ縮小していくような区も多いですし、豊島区も今後そのあたりを考えていく時期には差し掛かっているのかもしれませんが、そういった全体的な状況も踏まえ、今後豊島区全体として幼児教育の質を向上していくためにいろいろな取り組みをしていこうという時期でもございますので、実際に中心となってどこが進めていくのかを踏まえた上で、またご検討いただければと思います。

それでは、以上で教育ビジョン幼児教育部会の全日程を終了いたします。

最後に本日の部会は終了となりますが、今後事務局がこの最終報告書を親会である教育ビジョン検討委員会に報告をするとともに、区長副区長などの区長部局にも報告をさせることとなります。

その過程の中で文言や構成などの修正があるかと思いますが、そのあたりの微修正は事務局におまかせするというところでよろしいでしょうか。

ではそのように進めさせていただければと思います。最後になりますが私の方からも一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

今回このような時期に、豊島区の幼児教育のあり方について多くの委員の皆様と意見を交換させこれからのいろいろな政策をまとめることができたことについては本当に

	素晴らしい会議であったと思っております。 豊島区に生活する子どもたち、そして保護者の方、地域の方、全ての方が本当に未来をよりよく生きていく、そういう豊島区を構築していくために、今ここが大きな正念場なのではないかなと感じております。 ぜひ、幼児教育の質の向上に向けた取り組みそして全ての子どもたちがウェルビーイングな人生を送っていかれるような、そういった教育行政を進めていっていただけたらと思っております。 このような報告書がここまで何とかまとめることができましたのは、事務局の皆様をはじめ、委員の皆様のお力添えがあったからだと思っております。 本当にありがとうございました。
事務局	挨拶